



やまとひめのみこと

倭姫命 篇

倭姫命、天照大神を祀る

『古事記』『日本書紀』のお話。崇神天皇（第10代）は、これまで宮中で祀っていた天照大神と倭大
国魂神（くにたまのたま）の二神の神威があまりにも強いので、宮の外で祀ることとしました。天照大神は、崇神天皇の皇女・
豊鍬入姫命（とよくわいりひめのみこと）に託され笠縫邑（かさぬいむら）（現在の桜井市檜原神社）で祀られたのですが、新たに適地を探すこととな
りました。

豊鍬入姫命に代わって倭姫命（垂仁天皇の皇女、豊鍬入姫命の姪）に天照大神が託され、新たな鎮座地
を求める旅のはじまりです。倭笠縫邑を出発した倭姫命・天照大神は、最初に菟田（うた）の笹幡（ささほた）へとやってきま
す。その後、引き返して近江国に入り、美濃国を廻って、最後に伊勢国へと至りました。

ここで天照大神が倭姫命に「是の神風の伊勢国は、常世の浪の重浪（しづなみよ）歸する国なり。傍国（なたぐに）の可（う）怜（ま）し国なり。
是の国に居らむと欲（おも）ふ。」とおっしゃり、ようやく伊勢国に落ち着くこととなりました。「伊勢神宮（お伊
勢さん）」、現在の皇大神宮（こうたいじんぐう）（内宮）の誕生です。

倭姫命が最初に訪れた菟田の笹幡は、現在の宇陀市榛原山辺三にあつたと考えられています。現在、こ
こには「笹畑神社」が鎮座しています。天照大神ゆかりの地として、この笹幡（笹幡）に神社が祀られるこ
ととなったのでしょうか。現在の笹畑神社の本殿は、明治25（1892）年に伊勢神宮の社殿に倣って、神
明造（めいじょう）としたものです。伊勢神宮に代表されるこの神明造は、古い神社建築様式のひとつで、弥生時代や古
墳時代の高床式倉庫から発展したものと考えられています。

